

編輯室の内外

愈々夏の最中となつた、滅私奉公すれば火も亦涼しと得ふを得ず、されど冷靜熱動すれば銷夏の效ありとは謂ひ得べきものなれ、定時刊行の期限付きなれば風雨強しとて休みもならず、言ふまいと思へど今日の暑さかな」とかこちながらもペンを走らさねばならぬ身、特に準戦時否殆んど戦時に達着した今日徒らに涼を追ふて徒然たるを許されざるものである、そこで簿書堆裡營々致々として漸く編輯を終ゆることを得たことへの歡喜を覺ゆる次第である。

蘆溝橋事件が発生して以來既に毎日晴となるか暴風雨となるか遲延に遲延を重ねて我が交渉に確答せず私かに兵力を北方に移動して抗日毎日の氣勢を煽り事態をして益々危機に進ましむる中華民國の態度は支那人の常習的とは云ふもの不可解至極の事である。其背後に何があらうとも露骨に公然と武力を以て日本を攻撃する力と餘裕とを有するものありや否、聰明な蔣介石の之を知らざる理なきを思ふときに、白色民族に對しての有色民族協力的協調の喫緊事なるを痛感せんことを訴る。

各々境界を定めて獨立の國家を形成せる事實に即し、眞の平和をもたらすことに努むるのか國家間相互の一大責務であるであらう。中華民國の要人達に如何なる意圖が

あらうとも我國に於ては學國一致が現下に於ての大緊切事である、近衛首相が各種調査會委員會の形式主義を一擲すと説き、政務官は内閣と一體となり且各省間の割據的傾向の如き弊風矯正を戒められたるは寔に國民全體の熱望する所に外ならない。

またして、關東方面に豪雨があつて數府縣に涉り山岳を崩壞し、堤防を破り、道路を損し、橋梁を流し、人畜の生命を奪ひ去つた。歳々々々斯る天災を被ることの慘事と損害の大なるを思ひ水を治めよ、更らに又山を治めよと絶叫せざるを得ない。治水國策の樹立や如何。

石黒北海道長官は歸道熱辯を振つて曰く「この際學國一致協力の體制下に離關打開に當ることが必要だ、然し時局に對しては徒らに焦慮し興奮することなく飽までも冷靜沈毅、職務に精勵一刻たりとも國力充實への努力を抛棄してはならぬと信ずる、しつかりやらう、いまにやるぜ」と眞に然りだ。

日本人はよく笑ふ國民だと嘲笑した洋人があつたことを記憶する、川上博士は笑ふのは一の罪惡だと何時だつたか話された、無暗にゲラ／＼笑ふのは無智の證據だと思はるゝが、全く笑はないのも死の神か幽霊かと思はる。ソビエツト・ロシアに旅行した某記者は「ロシア人の笑ふのを見たことがない」と革命の功勞者の多數が次から次

へ殺されて行くロシアは笑ふに笑はれないのであらう。

愈々國家を擧げて同心一致、時局に善所しなければならぬこととなつた。平時に在つての思想の相異も政策の紛争も政治の行懸りも一掃して正義の旗をかざしつゝ協力邁往すべき秋が到來した、然るに國體明徵論者の或連中は右傾主義の日本革新黨を組織したと傳へらる、果して然るか、一白露人がホテルのボーイに貴國では國粹革命黨が誕生したと聞く眞かとボーイ直に答へて我國にはそんなものはないと云つたとかや善哉言やである。(七、二五僊)

定價一部 五十錢
 一ヶ年分 金六圓
 發行所 社団法人 道路改良會
 東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内
 電話銀座(57)四二七
 發行所 東京市世田ヶ谷區代田壹丁目七八〇番
 編輯者 小島 效
 印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
 常磐印刷所
 印刷者 奈良直一